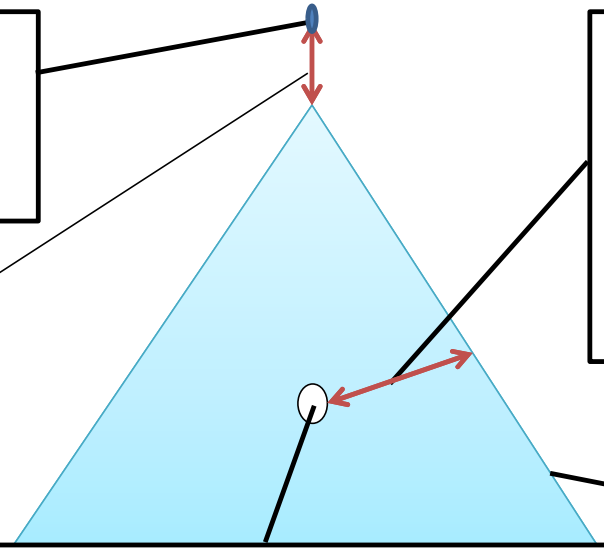
| | 小林秀雄著『本居宣長』:各章主題の「關係論」的纏め |
|---|---|
| 十一章 | ①理論的な思想(物:場 C')②學問(物:場 C')③己を知る道(物:場 C')⇒からの關係:どんな①でも「④:不思議な劇を演ずる。②とは③である」(D1の至大化)⇒「⑤:卑近・俗なるものに道」(④的概念F)⇒E:⑤とは「⑥にとつては「非安心・不納得」(即ち「己を知る」)。故に「俗なるもの」とは、現實とは何かと言ふ事で『好信樂・風雅』となる」(Eの至小化)(③への距離不獲得:Eの至小化)⇒⑥宣長(△枠):②③への適應正常。 |
| 十二章 | ①文學の本質(物:場 C')②歌の大道(物:場 C')⇒からの關係:①につき「③:出來る限り明瞭な觀念を規定(D1の至大化)してみる事。②を徹底的に分析(D1の至大化)したなら、その先に新しい展望は開けるに違ひない」(D1の至大化)⇒で「④:『物のあはれ』論」(③的概念F)⇒E:④といふ「『あしわけ小舟』の楫を取つた」(Eの至大化)(④への距離獲得:Eの至大化)⇒宣長(△枠):①②への適應正常。(即ち、「Eの至大化」=「D1の至大化」) |
| 十三章 | |
| 十四章 | |

(物:場 C ')
十一章:①理論的な思想(物:場 C')②學問(物:場 C')③己を知る道(物:場 C')
十二章:①文學の本質(物:場 C')②歌の大道(物:場 C')
十三章:
十四章:

| | からの關係(D1の至大化) |
|---|---|
| 十一章 | どんな①でも「④:不思議な劇を演ずる。②とは③である」(D1の至大化) |
| 十二章 | ①につき「③:出來る限り明瞭な觀念を規定してみる事。②を徹底的に分析(D1の至大化)したなら、その先に新しい展望は開けるに違ひない」(D1の至大化) |
| 十三章 | |
| 十四章 | |



E:〔F(言葉・概念)との附き合ひ方・用法〕・・・「So called」「Fと(△枠)との距離獲得」(Eの至大化)。
十一章:⑤とは「⑥にとつては「非安心・不納得」(即ち「己を知る」)。故に「俗なるもの」とは、現實とは何かと言ふ事で『好信樂・風雅』(Eの至大化)となる」。
十二章:④といふ「『あしわけ小舟』の楫を取つた」(Eの至大化)(④への距離獲得:Eの至大化)
十三章:
十四章:

(△枠)
十一章:⑥宣長(△枠)。
十二章:宣長(△枠)。
十三章:
十四章:

F(言葉・概念)・・・
十一章:「⑤:卑近・俗なるものに道」(④的概念F)
十二章:「④:『物のあはれ』論」(③的概念F)
十三章:
十四章: